

# 歴史教育者協議会第 72 回全国大会(オンライン)

初めてのオンライン大会。全国から420名の申し込みがありました！！

## ●初のオンライン大会に 420 人の申し込みで開催

歴史教育者協議会第 72 回全国大会は、7 月 31 日と 8 月 1 日の 2 日間の日程で、zoom を利用した全面オンライン大会として行われました。本来は 2020 年夏から延期した愛知・東海大会を名古屋で開催の予定でしたが、3 月に再延期が決まり、2 年連続の大会中止を避けるため、急遽オンラインでの実施となったものです。大会テーマは、「“コロナ社会”から希望を紡ぐ社会科教育」。大会申込者数は 420 人で、目標としていた 300 人を大きく上回ることができました。

今回は多くの方が慣れていないオンライン大会ということもあり、「入室」や「退室」時の混乱を減らすために、ふつうであれば 2 日間にわたって開催している分科会を 2 日目にまとめ、全体会と地域に学ぶ集いで 1 日目を構成することとしました。全体会の中心である、山田朗歴史教育者協議会の基調提案と望月衣塑子さん（ジャーナリスト）の講演の感想から、全体会の様子を紹介いたします。

## ●山田委員長の基調提案「歴史に学び、未来を構築するための自由な言論の喚起を」 感想

▽ 山田委員長の基調提案で、最も印象に残っているのが、1945 年を境にして歴史を見るという発想です。「明治維新」から 77 年、そして敗戦から現在までが 76 年という見方は新鮮でした。この見方は、明治から敗戦までの歴史学習をどう組み立てるのかを問い直すことにつながると感じました。同時に、戦後史の学習について、現代社会をどう捉えるかという問題意識からしっかりと構成して実践することの重要性を提起していたように思います。今後の大きな課題だと思いました。

(埼玉)

▽ 国際協調から戦争、敗戦、戦後改革と対米従属がわずか 30 年の間に起きたことだという指摘があり、グローバル化が格段に進んでいる現在では、世界の歴史もまた急激に進む可能性があるのだと思われました。同時進行している世界の中では、過去の歴史からの学びを現在に生かすことが大切だと思いました。(秋田)



基調提案を行う山田朗委員長

## ●望月衣塑子講演「コロナ禍を通して見えてきた日本の社会」感想



全体会記念講演 望月衣塑子さん  
「民主主義とは何か」

▽ どこかで疑問に思っていたオリンピックのこと、ワクチンのこと、政治のことなど、もやもやを解消してもらえたような気分になりました。そして、望月さんの願いや意思などを知ることができ、これからは応援していきたいと考えました。(埼玉)

▽ 徹底した取材に裏打ちされたお話しは臨場感があり、息を呑むような気持ちで伺いました。それにしても腹の立つことばかりで、そのことと真正面から向き合ってこられたことに改めて敬意を表します。最後のガンジーの言葉、私も大好きです。望月さんの闘いに励まされ、私も私の場で、おかしいことはおかしいと言いつづけます。(東京)

▽ 映画や書籍、Twitter など、望月さんの言動に注目しているが、真っ直ぐなもの見方に、改めて感心しました。権力に苦しめられることが多い昨今です。望月さんがおっしゃったように、憲法は権力を規制するためにあるものです。そのことを生徒たちと確認していきたいと強く思いました。(島根)

▽ ジャーナリストとしての矜持、事実に基づく整理と事実の基づく疑問をもつことの大切さを感じました。コロナ禍、オリンピックなど、仕方がないと感じさせることがたくさんありますが、おかしいよ、どうなっているのと問い続ける、疑問を持ち、本当のことを知ることに勇気も感じました。今の時期に適った企画でした。(東京)

▽ たいへん素晴らしい、プロのお話をお聞きできてよかったです！ 社会科の教員への期待も語ってくださり、改めて授業の目的を考えるきっかけとなりました。ありがとうございました！（愛知）

そもそもメディアの役割とは  
権力の監視、チェック  
報道の自由度ランキング日本66位  
「ジャーナリズムとは報じられたくないことを報じることだ。それ以外のものは広報にすぎない」 (ジョージ・オーウェル)

望月講演より

## ●地域に学ぶ集いは6講座実施

オンライン大会ということで、本来「地域」に学ぶ集いという名称はふさわしくないのかもしれませんが、今回は名称を変えずに実施しました。東日本大震災から10年目ということで、福島県と宮城県から報告していただきました。参加者の感想を紹介します。

## 教科書問題～「歴史総合」を中心に～ 感想



オンライン全国大会

### 地域に学ぶ集い1 教科書問題

#### 参加された皆様へご連絡 その2 本日のプログラム

1. 「歴史総合」教科書の特徴について / 河合美喜夫 (東京歴教協) <25分>

2. 「歴史総合」をどう教えるか / 志賀 功 (大阪歴教協) <25分>

<休憩10分>

◇地域域からの発言/周藤新太郎 (千葉歴教協)・植田啓生 (岡山歴教協)

◇チャットでの質問への報告者の回答 <25分>

3. 新たな教科書攻撃 / 鈴木 敏夫 (教科書ネット21) <15分>

◇チャットでの質問への報告者の回答 <10分>



▽ 現場にしながら「歴史総合」教科書の分析ができていなかったもので、その傾向を知ることができたし、改めて各地域の取組を聴いて、「歴史総合」に向き合うための視点や課題を確認することができたのは大きな収穫だった。教科書問題からみると「歴史総合」にはさまざまな攻撃が予想されるので、実践を積み重ねることで対抗していかなければということも感じました。(和歌山)

▽ 歴史総合も興味深いものでしたが、教科書攻撃について、知らないことも多く、新しい情報をいれることができました。(千葉)

## 震災10年の宮城～被災地石巻の現状と課題～感想

◇ 東日本大震災の教訓をどのように繋いでいくのか、伝えていくのかが問われていると感じました。石垣さんの語り部活動や現地で感じたことが伝わってきました。とても勉強になりました。検証が大切だなと思いました。(鹿児島)

◇ 直接見に来てください。ご案内しますから、という言葉に力をいただきました。(神奈川)



地域に学ぶ集い「震災10年目の宮城」

## 震災10年の福島～:原発事故から10年～感想

◇ 震災から10年がたち、今の小中学生は震災の記憶がほとんどないという実態に、まだまだ問題山積の原発事故を風化させずに子どもに何をどう教えるのか？現場で苦労して試行錯誤しておられる様子がよくわかりました。大変勉強になりました。福島のみなさん、ありがとうございました。(奈良)

◇ 10年たちましたが、いまだに避難を強いられている様子がよくわかりました。また、被災地の福島であっても学校での風化が進行している様子もよくわかりました。福島原発事故の賠償に関する裁判もあり、まさに現在進行中の話です。震災について学習する機会は、ますます大切であると確信しました。(茨城)

### 日韓交流:コロナ禍の韓国教育事情 感想

- ◇ 昨今のコロナ情勢から国や地域を越えて交流することができなかつたため、とても良い機会となりました。(千葉)
- ◇ 韓国の報告者の方のほかにも韓国の先生方が参加しておられたこともあり、コロナ禍の中でも韓国の教育の取り組みが良く分かり、有意義な集いでした。(岡山)

### 日中交流:高校生による遠隔地交流 感想

- ▽ 中国の学生がどのような授業を受けて、どのような考えを持っているのか、いろんな声が聞くことができました。また、日本の高校生も中国との歴史を深く受け止め、自分なりに考えていることに関心しました。学び続け、このように交流することで、歴史への理解を深め、明るい未来づくりに繋がれば良いなと思いました。(埼玉)
- ▽ 日中の高校生の初めての記念すべき企画ですばらしいことでした。国家体制が異なるとはいえ、コロナ禍という共通の状況をどのように過ごしているかというテーマはとても良かったです。両国の高校生活には、当然なこととはいえちがいもありましたが、共通したことが、かなりありました。通常の学校生活、対面授業や友達との会話ができることの意義などが語りあわれ、緊張のなかに、通じ合うものがあつたと思います。(神奈川)

### 歴教協ユース世代企画:私たちが次の世代へ伝えられること 感想

- ▽ コロナ禍がもたらした生徒と教師の関係、新学習指導要領への移行による課題、社会と矛盾している校則等、様々な意見交換ができて有意義な時間となりました。(神奈川)
- ▽ 若い皆さんの、コロナ禍の下求められるリモート授業や新学習指導要領に沿った評価の問題、厳しい校則と社会とのギャップ・・・と日々直面する問題についての意見交換から窺われる真摯に教育に向き合う姿勢が頼もしかったです。(千葉)

### ●2日目、分科会で約100本のレポートを討議

2日目の分科会もオンライン実施となり、世話人が慣れない zoom のホスト役を担いながら実施しました。事前に分科会ごとの URL をお送りする必要から、申込時に参加する分科会も決めていただきました。さらに分科会レポートは事前に PDF ファイルで提出いただき、クラウド上にアップして、各自にダウンロードしていただく方式を採用しました。事前にレポートを読んでから分科会に臨めること、他の分科会の関心あるレポートもダウンロードできることなど、世話人・参加者から好評でした。感想の一部を紹介します。

### 第1分科会「地域の掘りおこし」参加者 感想

- ▽ どの報告も多くの学びや気づきを得ました。地域の掘り起こしは何年も地道な研究を継続して成果を得ているものが多いことに感銘を受けました。そういう歴史の事実の掘り起こしを生徒に伝えていかなければならないと思いました。(岡山)

## 第2分科会「日本前近代」参加者 感想

▽ 当初、前近代史といっても、私は現在高校日本史を担当しているので、小学校の報告が多くて、どうかな？と思っていましたが、意外に刺激になるヒントをいただけて良かったです。初めての ZOOM での会でしたが、論議はしにくいところもありましたが、スムーズに行えたと思います。(東京)

## 第3分科会「日本近現代」参加者 感想

▽ 昨今のコロナ情勢から、他地域の先生方と交流することができなかつたため、良い機会となりました。授業実践報告が少なかったのが残念でしたが、普段の授業作りのヒントとなる内容を多く得ることが出ましたので、今後の授業作りに生かしていきたいと思います。(千葉)

## 第4分科会「世界」参加者 感想

▽ 報告者の方々の内容に大きく刺激を受けました。中嶋さんは「最後の授業」を継続して実践されていることの重要性、三橋さんの三一運動の実践比較を高麗大の学生に考えさせる切り口、山村さんの生徒の意見をとことん深めていくプロセス、高木さんの時代と感染症の関連性や七三一につなげる視点、井ノ口さんの歴史総合の明晰な分析と、石原発言に対する具体的な実践報告、私は徴用工問題をテーマに、韓流好きの生徒が少なくない状況で、なぜ日韓関係が冷え切っているのかを考えさせたいと思っていたので、井ノ口さんのこの実践は大変参考になりました。(千葉・周藤新太郎)

## 第5分科会「憲法と現代の社会」参加者 感想

▽ レポートがとても充実していて、よかったですと思います。特に、兵庫県の稲次先生の戦争遺跡を生徒たちが調べてまとめる授業には興味を持ちました。日本全国には、さまざま形で戦争の遺跡なり記録が残されていると思います。それを生徒自身が調べて記録に残していくことはこれから特に重要な活動になると思います。沖縄や広島・長崎に行くだけでなく、近くであった戦争を知ることは、実は戦争が身近なものだったと子どもたちが感じることにつながると思います。こうした授業をぜひ広げてほしいと思います。(東京)

## 第6分科会「思想・文化・文化活動」参加者 感想

▽ 韓国創作絵本には社会問題を意識したものが多くあるということを改めて知り、隣国の文化を学校で紹介することの意義を感じました。山梨県の在日朝鮮人の北朝鮮帰国事業の話は、教材にできたら素晴らしいと感じました。大人にとりましても大事な歴史ですね。秋田の3人の青年たちが種蒔き雑記を発行して、日本の革新的社会運動に影響をもたらした史実は、今の青年たちにどのように受け入れられるのか。感慨深く拝聴いたしました。(東京)

## 第7分科会「現代の課題と教育」参加者 感想

▽ 若者の「保守化」「ネット右翼化」も言われる現代、これからの人たちに是非持っていて欲しいのが「日本人とは、歴史的に混血などによって形成され、これからも形成され続けて行く」という、当然至極なものにも拘らず、社会生活の中ではスッポリと抜け落ちてしまっている自己認識です。人類のD

NA、遺伝子情報の知識、とりわけ朝鮮半島と日本列島の住民が極めて近い血縁関係にあるということを確認しての原始・古代史学習、「日本人はどこから?」「日本という国はどのように?」「これからの日本は?日本人は?」・・・改めて、この問いへの応えを考えて行くような授業が必要なのでは・・・その際に地域教材を活かしたい・・・そんなことを考えました。(埼玉)

#### 第8分科会「平和教育」参加者 感想

▽ 報告者の報告がそれぞれユニークで、圧倒されました。実際の小中高校生相手の授業のほか、退職者が市民等を相手に、平和(戦争)を伝える活動をされていることがわかり、嬉しく思いました。それまでの教職経験の積み重ねの上に、さらに時間をかけて内容を深め活躍していることに、目を見張るものがありました。あとは、こういう形で実践の交流をするとともに、世代のバトンタッチをしていくことが課題であることがわかりました。内容的に、最初の報告者が小学校での従軍慰安婦の話をしていましたが、その話題が次以降の報告者の中にも出てきて、平和(戦争)と慰安婦問題は強いつながりがあることがわかりました。広島、長崎、沖縄、東京(武蔵野)、長野(松代)、川崎(中原)、北海道(札幌)等、各地の話も出てきて、また、それがつながっていき、なるほどなあと思ったりもしました。(東京)

#### 第9分科会「幼年・小学校低学年」参加者 感想

▽ いろいろな視点をもった実践報告を聞くことができ、2学期にやってみたいことが増えました。教科書をなぞるように形だけの授業をしていたなあ、と反省させられることもありました。ここで学んだことをもとに、子どもたちにどんな力をつけたいのか、そのためにはどんな授業をすればいいのかをもっと考えて実践を重ねたいと思います。(三重)

#### 第10分科会「小学校3・4年」参加者 感想

▽ 地域教材の教え方に関心を持って参加しました。自分の住んでいる当たり前の地域の景色を、別の視点から見つめ直すことは、子供に任せていては難しい。何をどのように提示して、考えさせるか、教師の側から提示する提示の仕方は様々ですが、やはり、教師自身が地域を歩き、調べ、よく理解して臨むことが基本であると感じました。時間がないことを言い訳にせず、この夏休みに改めて、町史を読んだり、地域を巡ったりしながら理解を深めたいと思いました。(東京)

#### 第12分科会「小学校6年」参加者 感想

▽ 地域教材が学校や他の先生方につなげていけない悩みは、皆さん抱えていることがわかりました。悩みながら、全国各地で地道に広げる取り組みをしていることもされていることもわかり、自分もがんばろうと、思いました。韓国の先生方にも参加していただきました。民主主義の価値をしっかりと教えている教育課程に驚きました。わたしたちができる日々の授業や学校づくりの中に民主主義を意識していかなければならないと改めて考えました。(北海道)

#### 第14分科会「中学校地理」参加者 感想

▽ 4名の方々の報告、いずれも刺激的でした。現職(高校)を離れてちょうど10年、もうすぐ後期高

齢者になりますが、出来ることなら皆様の実践を参考にして、再度教壇に立ち、子どもたちとともに社会科としての地理教育を学び直したいと思いました。社会科としての地理教育、国民としての基礎学力＝主権者としての意識を育てる、人権意識をしっかりと身につけさせる地理教育についてのこだわりは今後ますます必要になってくると思います。「地理は面白い」（福島）

#### 第15分科会「中学校歴史」参加者 感想

▽ 「映画の主人公に手紙を書く」などの実践は、現場で使えるようなヒントがいっぱい詰まっております。生徒たちにいかに当事者意識を持たせて歴史を考えさせるか、が大切なことを改めて確認することができました。本校の実態に合わせて、いろいろと模索してみたいと思います。柔軟な発想と方法のご提示、ありがとうございました。公立中学校の1クラス40人近い生徒たちに、どのようにすれば興味・関心を持たせられるか、自分の思いを表現できるか、ということ考えたとき、一つのアプローチではなかなかうまくいきません。基礎学力の問題が大きく立ちまわります。そのなかでも、深い学びにつなげていくためには、いろいろな方向からの切り込みが必要だと思えます。報告された実践に学び工夫していきます。（京都）

#### 第16分科会「中学校公民」参加者 感想

▽今年度も参加させていただきありがとうございました。当たり前のことかもしれませんが、皆様のご報告から、子どもたちの声に寄り添いながら、具体的な教材研究、実践研究が求められていると実感しました。それは数値、データだけでなく”人”であり、リアリティであると今年も学ばせていただきました。子どもたちに丸投げしない、子どもたちの声に向き合いながら、教師も共に悩み、教材を通して共に考えていくことを改めて、報告者の皆様、また議論の中で実感した次第です。これは日々の授業づくりだけでなく、教師自身も、子どもたちのために、主権者として何ができるのか。美津子先生のこれまでの歩みからも学ばせていただきました。

「変化する時代」とよく言われます。新たに見直すこと、議論することもあるかもしれません。しかし、そんな「変化」を黙って見過ごすのではなく、疑い、「変化」を”煽る”のは誰か見極め、人権が蔑ろにされていることを、「人」、「憲法」に寄り添い追求していきたいと思えます。（愛知）

#### 第17分科会「高校」参加者 感想

▽ 皆さんのどの実践報告も授業への熱い思いがひしひしと伝わってきました。特に川島先生の生徒会が取り組んだ実践は本来あるべき主権者教育とはこのようなものだと感動しました。江田先生の家庭科の実践も今までなかった報告で斬新な視点を提供して頂きました。またいつもながら板倉先生の鋭い問題提起を含む実践も素晴らしい内容でした。（千葉）

#### 第18分科会「大学」参加者 感想

▽ 大学分科会に初参加。三人のレポーターの方々からそして討議の中で多くのことを学ぶことができました。今まさに大学の教職課程のあり方が問われていることがよくわかりました。未来志向で、次代を担う若い教員を養成することが喫緊の課題であり、教員になってすぐの実践に期待するのではなく、経験を積んで5年後そして10年後の教育実践に実を結べるような教員養成が大学現場に求めら

れていると切実に感じました。大学の教員には、すぐさま現場に対応できるスキルではなく物事の本質に迫る授業づくりの理念を学生にどう伝えるかが問われており、長期に渡って教員の成長を見守る余裕も大学教員には必要だと思いました。実のある分科会に参加できてよかったです。(埼玉)

### 第19分科会「障がい児教育」参加者 感想



第19分科会(障がい児教育)－討論－

▽ 介助員や教員としての実践を聞き、改めて子どもとの信頼関係を築くことの大切さを学びました。子どもにとって「信頼できる人」になることで、様々な指導や支援を行っていけるのだとわかりました。また、「社会認識」「社会力」といった力を付けることは、将来子どもが社会に出た時に必要となってくるのだと学びました。社会科の授業が無くても、様々な教科で行われる根底となる部分に、その意識をもって授業を行っていきたいと思いました。(埼玉)

### 第20分科会「父母市民の歴史学習」参加者 感想

▽ 各地での「実践報告」は、地域に根差す動きとして大いに参考になりました。岐阜の魚次さんの戦争下での女性の「性被害」についての生々しい報告は、朝鮮や中国などの「慰安婦」問題とも重なってくる重く深い内容のあるものでした。戦時下の女性の「性被害」を含めて様々な被害について、日本を含むアジア全体の問題としても検証していく大切さを感じました。(長野)

### 第22分科会「授業方法」参加者 感想

▽ 小学校の2本のレポートをうかがいました。最近では、学校訪問をすることがなく、子どもがどう学ぶのかの感覚が鈍っているのだらうなと感じていますが、草分さん、上野さんの報告は、それを呼び起こさせてくれる内容でした。バーチャルな学び、ネット上の学び、間接的な学びがどんどん広がっていますが、本物に会うこと、触れることは、初等教育の子どもにとって欠かすことのできない学びの原則です。草分さんが出合わせる養鰻家、ウナギ研究者(絵本原作者)は、みんなおとなの専門家です。こうした人々に、科学の目(専門家としての鑑識眼)で話してもらうことが、どれだけ大事なことなのかよくわかりました。

### ●来年度に向けて

オンラインでの大会開催の結果、PCに詳しくないベテラン会員の不参加を生んだ一方で、介護や育児や部活指導で参加しづらい状況の方から、オンラインのおかげで参加できたとの声も届きました。また「オンラインで参加できる道を閉ざさないでほしい」「コロナが収束してもオンライン参加を可能にすれば、参加を広げられる可能性を感じました」という感想も多数寄せられています。ハイブリット開催は今後に向けての課題となりました。

同時に、来年こそは、愛知・東海大会を現地で開催し交流を深めたい、という声も多数寄せられています。全体会では、愛知・東海大会を担う五県の事務局のみなさんが、リレーアピールの形で愛知・東海大会の魅力を語りました。参加者の感想を紹介します。来夏は名古屋でお会いできますように。

▽ 東海五県のみなさんのアピールは、とてもワクワクするもので、感動しました。やはり歴教協全国大会の醍醐味は、現地に足を運ぶこと、その地域で学べるものに出会うことだと再認識しました。(埼玉)

▽ とてもワクワクする紹介でした。フィールドワークは全部行きたいと思いました。どうしよう。(神奈川)

▽東海ブロックの各県代表のアピールは、いずれも来年の大会への期待を膨らませる内容でした。来年こそ名古屋に集まって直接語り合える大会が開催されること、フィールドワークが実践できることを切望しています。(秋田)